



# 新参者の嬉しい誤算

## —熊野神社裏の崖線—

板橋に越してきて、2年半がたちました。

私の家の近くには熊野神社があり、社寺林が少し残っています。その隣の崖線にも緑地が続き、毎日の暮らしの中で土と草の匂いを感じられる大切な空間です。

夏の夜は、崖線をのぼって帰宅する途中、蟬の羽化を見るのが日課になっています。ミンミンゼミとアブラゼミ、木や柵に鈴なりにぶら下がる姿を、(蚊の攻撃に耐えられる限り)じっと見続けてしまいます(写真)。時には道路をうろろしている幼虫を、そと柱の近くに移動させ、ヒーローになった気分で一人悦に入ることもしばしば。ある夜には、家の前で立派な雌のヒキガエルに出会ったこともありました。夕涼みをしていたのか、産卵場所を探して途方に暮れていたのか分かりませんが、アスファルトの片隅で身じろぎひとつせず佇んでいました。

我が家の猫の額ほどの庭にも、時折カナヘビやトカゲが走ります。正直、引っ越しを決めた時には、見渡す限りのコンクリートジャングルを前に自然とのふれあいはほとんど期待していませんでした。しかし、暮らしの中で、四季折々の野生の生きものたちと、想像以上に出会えることに感動し嬉しく思っています。

大都会東京にあって、すさまじい数の人が住む板橋にも、まだ、野生の生きものが暮らす自然が残っている。—これはとても嬉しい誤算でした。風前のともしびである板橋の自然にも、まだできることが多いのではないかと感じています。



私自身が地方から出てきて、東京の人口と開発圧を増やしている自覚もあります。小さな生きものたちの絶滅の瞬間を目撃することにならないよう、あの夜出会ったヒキガエルが安心して産卵したり散歩したりできる身近な自然が増えるよう、微力ながら努力する所存です。坂本さんをはじめ御会の活動をお手伝いするとともに、一区民として自然を残してほしいという声を行政に伝えていきたいと思います。

最後に。その昔まだ上京する前に、生まれも育ちも板橋の友人から、「板橋は染みつくよ(笑)」と聞きました。公私ともにご縁に恵まれたこの板橋に、私も染まっていきたいと思います。どうぞ末永くよろしく願いいたします。

2018年春 田邊仁美

# ビオトープと水と緑の会の活動を 知ってもらうための二つの大事業

## 1 環境なんでも見本市

毎年2月の第1土曜日・日曜日に開催されるエコポリスセンター主催の環境なんでも見本市は、



環境団体、学校、企業が参加し、来場者で賑わいます。この催しは、私たちの活動を知ってもらう数少ない発表の場であり、企業のエコ製品や新しい取り組みを知る場であり、また活動されている方達との出会いの場でもあります。毎年少しずつ工夫・改善されており、なじんできました。いたばし水と緑の会は2006年から参加しています。

来場者も出展者数も多く、展示を見てもらえるようブ

ースごとにクイズを出します。素通りされずに興味を持ってもらえるよう、毎年知恵を絞ります。私たちは、会の自己紹介のパネルの他に、身近な自然をちょっと考えるクイズを用意します。でも「短時間で答えがわかる3択クイズ」で環境問題を理解するのは無理。これまで植物の種(繁

殖の戦略)のいろいろ、外来生物、アメリカザリガニ、冬に生きている生物等々についてクイズをつくりました。実物を見るのがいちばんですが、生き物はちょっとむずかしい。ドングリなど木の種や草の種は見たり触ったりできます。種を一つ一つ見るとそれぞれが見事な形(造形美)をしていて、種を散布する植物の戦略には興味が尽きませんが、なかなかじっくり見てもらえません。言葉として自然は大事と思っていても、自然を構成している自然物には気づかない、というか無関心が多いように思います。それでもクイズに答えるためにパネルを見るし、少なくない方達がていねいに見て下さって話が弾むと、私たちもとてもうれしいですね。今年は誰でも知っているスズメのクイズにしました。スズメは知っていても、クイズの答えは簡単ではないので、パネルを一生懸命に見ます。そして少しは興味が湧いたかなあとと思っています。

## 2 赤塚梅まつり

赤塚ため池公園で開催される梅まつりは、地元の赤塚・成増・徳丸支部の町会が主催する大きなイベントで、いたばし水と緑の会は、20年程前にとんぼ池を作るときから、ビオトープを理解してもらうために梅まつりに出展しています。以前は、甘酒のサービス、野点、お琴の演奏、俳句の募集と入選句の発表など、観梅中心の静かな催しでしたが、年々豪華なイベントになり、ステージは、太鼓、吹奏楽からベリーダンス、フラダンス等々書き切れないうくらい盛りだくさんで、大賑わいです。



暦では今年は3月6日が啓蟄(けいちつ)。啓蟄とは「冬ごもりの虫が這い出る」(広辞苑)という意味です。言葉通り、毎年梅まつりの開催中に冬眠していたカエル達がとんぼ池に集まり、婚活し、そして紐状の卵の固まりを産みます。今年も梅まつりの初日にカエルが来ました。私には暖かくなったからではなく、この賑やかさで目が覚めたようにも思えました。

棚田のとんぼ池にカエル(ヒキガエル)が来た! 普段はノソノソしているカエルがバシャバシャと泳ぎま

わり、カエルがカエルに抱きついている・・・それをたくさんの人たちが注目(写真左)。子ども達は「かわいいー」と言い、大人はスマホやカメラを向けます。これはインスタ映え!! です。飽きずにいつまでも眺めている人もいます。自然と関わりが少なくなった昨今、「こんな自然に出会えるなんて」と感動する人、ただ「かわいい生きもの」を見ている人などいろいろ。中年の男性二人がごそごそ話しています。ここに湧き水の池なんてあるわけない、カエルは他から持ってきたものじゃないか、など。「ヤラセ」だと思ったようでした。鋭い観察眼です。私は言いました。「水は湧き水です。200mほど離れたところからパイプで引いてきて、見えるところだけ自然



っぽくしているの、怪しいと思いますよね。でも、カエルはこのあたりの裏山に住んでいるカエルで、エサをやっているわけではありませんよ」と。今年池に来た生きものや、池の手入れのようすなどの写真をフェンスに掲示して紹介していますが、これだけでは不十分です。若い人たちは湧き水やカエルのことを知らない人も多いでしょう。梅まつりは赤塚公園の自然や生きものを知ってもらうチャンスなので、出会った方達とのおしゃべりを大切にしたいですね。

とんぼ池のそばで、ノコギリ体験コーナーを設けています。人気があって、200人から300



人の子どもが参加します。子ども達にノコギリの使い方を手にとりて教え(ほとんど切ってあげたり?)、太い竹は子どもだけでなく女性達もがんばって切りました。竹は花入れや鉛筆立てになり、輪切りにした剪定枝に絵を描いてペンダントをつくります。今年は、絵を描く子もいましたが、オリンピックの影響で金メダルが目立ちました。

写真左：ノコギリを使って枝を輪切りにする

会員も高齢になり、寒い時期に屋外で一日中過ごすのはちょっと堪えますが、ビオトープを理解してもらう大切な機会なのでがんばっています。

## ヤゴやオタマジャクシがすめる池になるよう また池を直しました

赤塚とんぼ池は、平成10年度、板橋区が計画から池づくり作業まで住民参加によりにつくったビオトープ池です。ビオトープとは「生きものが生息する場所のこと」です。このビオトープ池はトンボとカエルの子(オタマジャクシ)がくらせる池を目標とし、いたばし水と緑の会は、この池づくりに参加し、完成後は観察・維持管理を行ってきました。

十数年を経過して、水路や池の漏水などのトラブルが増え、ボランティアによる対応も限界でした。そこで、区に補修をお願いしたところ、26年度予算で水路のみ補修されました。池については対応してもらえませんでした。素人集団で池の不具合を直すことは到底無理だし、改善案も思いつきません。そこで、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団様の助成金をいただき、水研クリエイティブ(株)尾坂尚之様に相談して設計していただき、自分たちで出来ることは自分たちでやり、技能のいる仕事はプロにお願いして、手入れのしやすい棚田の形に改修しました。こ

のとき排水口が高い位置にあることが課題として残りました。私たちが水が抜ける穴を掘ったりしましたが、目詰まりしてしまいました。

そこでまた公益財団法人損保ジャパン興亜環境財団様のお世話になり、29年度の助成金で池を直すことにしました。



修理する前の池。橋の右側はいつも水が溜まっていた。

この池を底抜けにして、水が浸透するように直しました。

今回の修理の内容は、橋の右側の池を浸透域とするもので、前回と同じ水研クリエイト（株）尾坂さんをお願いしました。

この池は、最初に書いたように、市民参加で設計し、市民参加で作り上げたビオトープです。当時私たちは、「コンクリート＝自然でない」と考えていました。元々あったコンクリートの池を壊し、水が漏れないように池底にゴムシートを貼り、シートの下にさらに防水剤「ベントナイト」の層が入った完全防水の池をつくりました。この防水シートを除去することが非常にやっかいでした。



プロをお願いするに先立って、私達で出来ること一池底の落葉の除去し、次に表土と下の粘土を2日かけて掘り起こし剥ぎ取り、別々の土嚢袋に入れました。土は重くて、我々には重労働でした。

表土と粘土を掘り出してゴムシートが出てきたところ





1月17日に専門業者と一緒に（私たちはあまり役に立ちませんでした）、重いゴムシートを剥がし、ベントナイトでべたべたのゴムシートを干して乾燥させてから丸めてゴミに出しました。

写真左 ゴムシートを剥がす



掘り出した粘土で、畦（あぜ＝棚田の間の土手のこと）を補修しました。畦はできて3年しかたっていませんが、踏まれたり、ザリガニが開けた穴から水漏れして傷んでいました。ザリガニの穴は塞いでもすぐに別のところに開けられ、水は上から順番に棚田を流れてくれません。畦の補修は、私たちはお呼びでないプロの仕事でした。

（写真左）



ここからは私たちの仕事です。浸透可能になった大きな穴に入れる埋め戻し土がほとんどありません。枯葉、剪定枝、枯れ草等を投入し（写真左）、その上にかき集めた土を入れました（1月24日、2月10日、17日）池底が平坦で単調なので、部分的に掘って深みをつくりました。2月17日に水をせき止めていた土嚢を外して湧水を全量流入させました。湧水量はだいたい毎分12リットルあり、これは水道水を普通に開けた位の水量です。これが全量浸透しています。

梅まつりの前、3月1日に練馬で35mmの降雨がありましたが、池の水位は変わりませんでした。3月8日～9日朝にかけて大雨がありました。練馬で150mm、すごい雨でした。9日午後見たときは、水位は上昇して、橋の左側も右側にも水が溜まっていた。深い池になったのでカワセミが飛来、様子を見てエサがないことがわかったのでしょう、飛び立っていきました。水鳥は種類によって採餌しやすい深さがあります。浅い池になるとカワセミは来なくなります。11日、猪鼻さんに池のようすを見てもらいました。もう水は引いて浅くなっていました。



写真左：3月9日大雨が止んで9時間後、写真右：3月11日湧水は流入し続けても水が引いた池

すごい浸透能力です。この池のそばは昔田んぼがあった低地です。本来、水が浸透しにくい地域ですが、地下水位が低下したり、土盛りされたりして、低地でも相当の浸透能力があることがわかります。

なぜ私たちは、とんぼ池にこだわっているのか。

昔このあたりは湧き水があり、サワガニがいて、湧き水を利用した田んぼがあったところです。近くの不動の滝の湧き水は、量は減っていますが涸れずに出ています。そして不動の滝の向かいには、とんぼ池を潤すに十分な湧き水が出ています。そして崖の樹林と崖下が公園です。昔の風景を再現して、トンボやカエルがいる水辺にふさわしい場所です。しかしそれは人手をかけて維持するのではなく、あまり手をかけずに、自然のままに維持管理できることが必要です。

湧水の全量が浸透域に流入して浸透すれば、流入水量の管理をしなくても池全体が浅い水位で維持され、ザリガニの繁殖を抑制できないかと期待しています。

池の修理によって池の周囲も裸地になってしまいました。草が茂っていることを嫌う人も多いのですが、草地は生きもの達が敵から身を隠せる場所です。できるだけ草刈を減らしていきます。人が手をかける「おせっかい」が、よいのか、無意味なのか、悪いのか、わかりません。じっくり時間をかけて観察し、考えていきたいと思えます。

3月6日、カエルはいみせんでしたが、卵がたくさんありました。9日にも産卵していました。この卵がどうなるか、次号でお知らせします（坂本 郁子）。



# 活動のお知らせ

運営委員会：3月24日（土）12：30～13：30

4月28日（土）12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先：坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：5月19日（土）12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

## 1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の環境整備と観察。

集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）（予定を変更する場合があります）

3月24日（土）10：00～11：30

次年度の活動について、フィールドを見ながら相談します。

4月28日（土）10：00～11：30 バッタ広場 クズ、外来種の抜き取り

新企画：第2日曜日はトンボ池と城址・バッタ広場の自然の不思議探検

4月15日（日）10：00～11：30

いつも入れないとんぼ池でオタマジャクシがいるか、池の外はどうなっているのかも見てみましょう。

5月13日（日）10：00～11：30

## 2 日暮台公園樹林地の観察

4月7日（土）、5月5日（土）いずれも10：00～11：30 日暮台公園前集合

（連絡は坂本 090-4618-1295まで）

木が切られて、明るい森になりました。早春の林縁を観察し、これからどのように変化しているか見ていきます。日暮台公園の「ちょっとだけビオトープ化」ができないかも考えます。

●ビオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。作業や観察会で身近な自然を発見できるのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。